

東京都農林総合研究センター



育てます豊かな食とみどりの東京

公益
財団法人

東京都農林水産振興財団

Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

農林総合研究センター

農林総合研究センター（農総研）は、明治33年創設の東京府立農事試験場、大正9年創設の東京府立種畜場、昭和32年創設の東京都林務課分室の伝統を引継ぎ、平成17年に当時の農業・畜産・林業の各試験場を統合し設立されました。平成18年には、平成2年に創設された東京都立食品技術センターの運営を担うこととなり、農林水産業から食品産業まで幅広い分野を担当する公的試験研究機関として、急速に変貌する東京の農林水産業と食品産業の振興のため、行政・普及機関等と密接に連携しつつ、多様なニーズに対応した研究開発に取り組んでいます。

研究企画室 ☎042(528)5216

農総研の3つのミッションを遂行するための企画・調整を行っています。

- 生産・流通・消費の現場を踏まえた研究開発により、東京の農林水産業と食品産業の振興に貢献
- 都民と東京を訪れる広範な人々のニーズを踏まえた研究開発により、健全で豊かな都民生活の発展に貢献
- 東京の農林水産業と食品産業に新たな可能性を切り拓く研究開発に果敢に挑戦

研究のレベルアップ

内部検証に加え、各分野の専門家による外部評価を踏まえた研究計画の策定や研究成果の発信などにより、都民や事業者役に役立つ研究を推進しています。



専門家による外部評価委員会

産学公による分野横断的研究の推進

多様な産業や大学などの研究・教育機関が集積する東京の強みを活かし、産学公・農商工連携による分野横断的で、効果的かつ効率的な研究開発を目指します。

農工融合による東京型統合環境制御生産システムの開発



採光性と保温性を高めた低コストハウス

東京式養液栽培システムの開発



プロジェクト推進体制

- 東京都農林総合研究センター
- 都立産業技術研究センター
- 民間企業



光合成を最適化する環境制御技術

汎用情報技術の利用

研究成果の公表

生産者や事業者など都民に向けて研究成果を積極的に公表しています。



アグリビジネス創出フェアへの出展



研究成果発表会

農総研の技術を活かした研修と食育

農業後継者に向けた研修や、体験イベントを通じた食育など普及啓発事業を行っています。



農業現場を視察する農業技術研修生



幼稚園児のサツマイモ栽培体験

東京の主力品目である野菜・果樹・花きについて、東京オリジナル品種の育成や生産性・品質向上に向けた新技術の開発などにより、限られた農地で高収益を上げることのできる経営モデルの確立に取り組んでいます。

東京オリジナル品種の育成



キウイフルーツ「東京ゴールド」



香りシクラメン「はる香ミディ」



ワケネギ
「東京小町」



都市の高温・乾燥に強い
ブルーベリーの育成



甘みの強い摘み取り用
露地イチゴ「東京おひさまベリー」

優れた特徴を持つ品種間の交配や、バイオテクノロジー等の手法により、東京オリジナル品種を育成し、その利用技術を開発しています。

東京オリジナル品種は、生産者に高収益をもたらすとともに、東京農業の存在感をアピールする格好の素材となります。

生産性・品質向上に向けた技術の開発

野菜では、多品目生産に対応できる養液栽培システムや、温湿度・CO₂などを含めた統合環境制御生産システムなどを開発するとともに、直売型経営に向けた品種の選定や栽培技術を確立します。

果樹では、省力・早期成園化・低コスト技術などによる、高収益型栽培技術を開発します。

花きでは、高品質化、省エネ等の施設園芸技術の開発や、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を見据え、夏花の利用拡大による都市緑化技術の開発を進めています。



ナシの根圏制御栽培



高収量で多品目生産に対応した
養液栽培システムの開発



暑さに強い夏花の選定



直売に向く花き品種の比較試験

農作物の安全性と安定生産を確保するため、病害虫や生育障害の原因を解明し、病害虫防除技術・農薬残留低減技術・土壌の適正管理技術を開発するとともに、養液栽培の肥培管理技術やICTを活用した環境制御技術の開発に取り組んでいます。

病害虫防除技術の開発

都内で発生する新発生・異常発生病害虫の原因を究明し、的確な防除対策を構築すると同時に、農薬に対する病害虫の抵抗性などを調査し、化学農薬のみに依存しない総合的な病害虫管理技術の確立を目指しています。



ワサビ病害虫発生調査(奥多摩町)



ワサビに発生した疫病の病徴と病原菌



トマトかいよう病耐病性台木の検証

土壌の適正管理技術の開発

都内農地の保全や農産物の安定生産を支えるため、土壌特性の把握と環境に配慮した土壌及び肥培管理技術の開発、また生育障害の原因究明と低減・回避技術の開発を進めています。



試坑による土壌の特性調査

農薬の残留調査と分析技術の開発

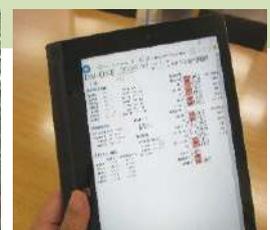
農作物の安全・安心の確保と農薬の適正利用を進めるため、農産物や農地周辺環境に残留する農薬を分析・評価しています。



残留農薬の分析

環境制御技術の開発

ICTを活用して、ハウス内統合環境制御など、農作物に最適な生育環境を作出する低コスト・高機能化技術を開発しています。



統合環境制御温室での生産状況と操作端末

高品質で安全な東京ブランド畜産物の開発・維持改良を進めるとともに、畜産物の生産性向上を目指した技術開発や、環境問題など東京特有の課題の解決による、収益性の高い畜産経営の確立に取り組んでいます。

東京ブランド畜産物の開発

「トウキョウX」の高品質な肉質の維持向上や、「東京うこっけい」肉の機能性解明などの研究により、東京の畜産物のさらなるブランド力強化を図ります。



トウキョウX



東京うこっけい



東京うこっけい肉



東京牛乳

生産性向上に向けた先進技術の開発

優秀な遺伝資源の確保と効率的な繁殖のため、豚の凍結精液利用技術や体外受精卵の移植技術を開発するとともに、夏季の暑熱対策技術など生産性向上に向けた技術開発を進めています。また、畜産物のより高い安全性を確保するため、薬剤のみに依存しない家畜疾病の防除技術を開発しています。

豚体外受精卵の生産・移植技術の開発



豚の体外受精卵



体外受精卵の非外科的移植

暑熱対策による乳量・乳質の安定化



牛体の散水



牛乳成分の測定による効果判定

健全な子豚の育成



下痢症で衰弱した子豚



健全な子豚

都市と共存できる畜産環境対策

家畜ふんの堆肥化など有機質資源の有効活用のための技術開発に取り組み、都市環境と調和した畜産経営の確立を目指します。堆肥化装置から発生する悪臭の効果的かつ効率的な処理技術を開発し、脱臭槽の適正な管理方法を提案します。

脱臭槽の処理能力強化技術の開発



脱臭槽(手前)と堆肥化装置(奥)

東京を安全で緑あふれる都市にするため、様々な都市空間における緑化技術の開発や緑化場면을彩る樹種の選定に取り組んでいます。また、東京の森林産業を育成し、森林をより価値あるものとして再生・保全するため、将来を見据えた森林づくりに向けた技術開発を進めています。



都市緑化技術の開発

街路やビルの屋上・壁面、海浜や河川敷、イベント会場など、様々な緑化場面に応じた新樹種の選定と緑化技術の開発を進めています。

また、災害に強い都市づくりのため、火災の延焼抑制などに着目した街路樹の特性を明らかにし、防災に役立つ緑化技術を開発しています。



都心にクールスポットを提供する
移動式コンテナ緑化技術



街中の狭い場所にも適した
樹木による緑化植栽



都市緑化樹木(ヒメイチゴノキ)

森林の再生・保全技術の開発

多摩地域の森林環境に適した花粉の少ない針葉樹林や広葉樹林に関する森林整備技術を開発しています。

また、森林被害をもたらすシカなど野生動物の被害実態の解明や低コストの森林施業を目指した技術開発などを進めています。



野生動物による被害実態の解明



コンテナ苗による低コスト生産技術



無花粉スギ調査林(日の出試験地)



奥多摩町の広葉樹林

農林総合研究センターの東京東部地域における拠点として、コマツナや鉢花、花壇苗等、歴史と伝統のある地域特産野菜・花き類を中心に、安定生産や新製品開発などに向けた技術開発に取り組んでいます。

東京伝統野菜の商品力の強化

東京東部地域の主力野菜であるコマツナの商品力強化を目指して、サラダや加工利用などを含む多角的な視点から品種の特性を解明しています。

また、ごせき晩生コマツナ、亀戸ダイコン等の江戸東京野菜について、優良系統の維持や栽培技術の確立を進めています。



コマツナ品種比較検討会
普及指導員や研究員などで評価



**コマツナのアミノ酸組成の
分析・評価**

うま味・甘味・苦味等との関連の解明



コマツナ生産管理方法の改善
作業性の評価・検討



亀戸ダイコン

安定生産のための技術開発

花きの新製品開発

新品種を利用した3月咲きチューリップの切り花生産をはじめとする新たな品目の栽培管理技術の開発など、付加価値の高い新製品の開発を進めています。また、伝統行事と結びついた“朝顔市”のアサガオや“七草かご”などについて、新たな価値を付与した製品開発にも取り組んでいます。開発した技術は、都内全域のカジュアルフラワー生産現場などにも展開していきます。



3月咲きチューリップの安定生産技術の開発



切り花パンジーの生産・利用技術の開発

都内食品産業の振興ならびに都民の食の安全と食生活の充実を図るため、安全性や機能性などに着目した魅力的な製品の開発や、地域資源を活用した加工食品の開発に関する研究に取り組んでいます。また、都内食品企業が抱える技術的課題の解決を図るため、幅広い技術支援事業を実施しています。

伝統と新たな魅力を備えた製品の開発

歴史と伝統に培われた東京の食品製造技術を踏まえつつ、健康機能性の付与、安全性上の確保・向上、地域資源の活用、都民の食生活の変化に対応し、国際都市東京にふさわしい魅力と競争力を備えた食品とその製造技術の開発を目指しています。



納豆・納豆菌に関する研究開発



ソデイカ
(小笠原近海産、体長1m)



ソデイカのソーセージ
茶色:イカ肉のみ
黒色:イカ墨入り



乳酸菌入りべったら漬け



企業と共同開発した納豆

食品企業への技術支援と6次産業化の推進

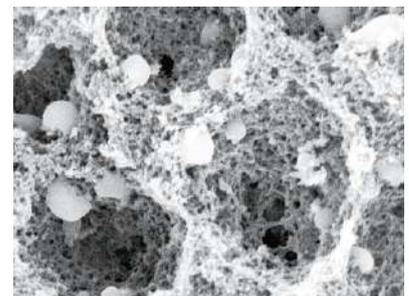
食品企業の抱える技術的課題の解決に向け、技術相談をはじめ、企業からの依頼試験や受託事業のほか、企業自らが製品の品質評価や開発を行える開放試験室の提供、各種検査技術習得のための技術者研修会の開催、食品技術アドバイザーの派遣など、幅広い支援事業を実施しています。また、農林漁業者・団体が取り組む都内産農林水産物の加工品開発による6次産業化も支援しています。



機器が充実した新しい開放試験室
(平成29年リニューアル)



食品企業の技術者を対象とする
研修会の開催



電子顕微鏡による
食品の構造観察(受託事業)

事業所一覧

立川庁舎 〒190-0013 立川市富士見町3-8-1

アクセス／JR青梅線西立川駅下車 徒歩7分
 または
 JR立川駅南口より西武バス立川駅北口
 行き10分「農業試験場前」下車

研究企画室 ☎042-528-5216

園芸技術科 ☎042-528-1394

生産環境科 ☎042-528-0520

緑化森林科 ☎042-528-0538



青梅庁舎 〒198-0024 青梅市新町6-7-1

アクセス／JR青梅線小作駅東口より西東京バス三ツ原循環
 西廻りで10分「平松北」下車徒歩3分
 または
 駅前タクシー利用約5分

畜産技術科 ☎0428-31-2171



農林総合研究センター 江戸川分場

〒133-0073 江戸川区鹿骨1-15-22

アクセス／JR総武線新小岩駅南口より京成バス(2番)で
 15分「農業試験場」下車

☎03-3679-1458

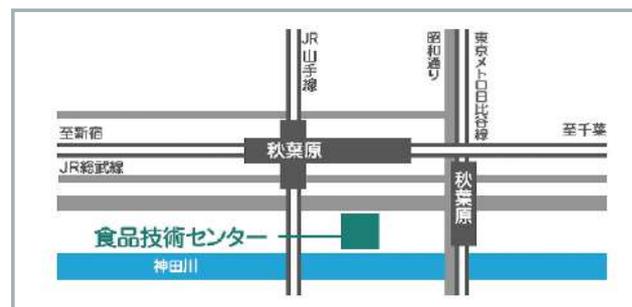


農林総合研究センター 食品技術センター

〒101-0025 千代田区神田佐久間町1-9

アクセス／JR・東京メトロ日比谷線・つくばエクスプレ
 ス秋葉原駅下車 徒歩3分

☎03-5256-9251



育てます豊かな食とみどりの東京
 公益財団法人 東京都農林水産振興財団
 Tokyo Development Foundation for Agriculture, Forestry and Fisheries

財団HP : <http://www.tokyo-aff.or.jp>
 財団Twitter : @tokyo_tdfaff

